

ANTIALLERGIC AGENT

特許公報番号 JP2000166383 (A)
公報発行日 2000-06-20
発明者: NISHIBE YUKINAGA; NABA YOSHIHIKO
出願人 ICHIMARU PHARCOS INC
分類:
一 国際: A61K8/06; A61K8/97; A61K31/00; A61K36/18; A61K36/53; A61K36/75; A61P37/00;
A61P37/06; A61Q5/02; A51K8/06; A61K31/00; A61K36/18; A61K36/185; A61P37/00;
A61Q5/02; (IPC1-7): A61K35/78; A61K7/00; A61P37/06
一 特許:
出願番号 JP19980346468 19981207
優先権主張番号: JP19980346468 19981207

要約 JP 2000166383 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a novel safe antiallergic agent, a histamine release inhibitor or a cosmetic composition. SOLUTION: The antiallergic agent, a histamine release inhibitor or a cosmetic composition contains one or more kinds of plant extracts selected from Indeneae radix, scutellariae radix, casae, fruit of Citrus aurantium, stalk of Mucuna birdwoodiana, Cinnamomi cortex, leaf of Geranium thunbergii, magnoliae cortex, Achyranthis radix, and Asiasanum root. The extracts have a histamine release-inhibitory action and can be used for the prevention, alleviation and treatment of allergies, atopic dermatitis and relating inflammation diseases (for example, rubor, eczema, edema, tumor), skin roughening and other troubles on the skins and scalps. They can be applied to general beverages and food, too.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-169383

(P2000-169383A)

(43)公開日 平成12年6月20日(2000.6.20)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
A 6 1 K 35/78		A 6 1 K 35/78	C 4 C 0 8 3
			K 4 C 0 8 8
			Q
	7/00	7/00	K
A 6 1 P 37/08		31/00	6 3 7 E
審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 22 頁)			

(21)出願番号 特願平10-346468

(22)出願日 平成10年12月7日(1998.12.7)

(71)出願人 000119472

一丸ファルコス株式会社

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

(72)発明者 西部 幸修

岐阜県本巣郡糸貫町見延1387番地の28

(72)発明者 藤波 慶彦

岐阜県羽島郡岐南町みやまち1丁目159番地

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 抗アレルギー剤

(57)【要約】

【課題】新規で安全な抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤又は化粧料組成物を提供することを課題とする。

【解決手段】ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツトウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤又は化粧料組成物を提供するものである。

【効果】ヒスタミン遊離抑制作用を有し、又、アレルギー・アトピー性の皮膚炎症疾患(例えば、発赤、湿疹、浮腫、腫脹など)や肌荒れといったトラブルを有する皮膚・頭皮に対して、その予防及び改善を目的として使用することができる。尚、その他一般的な飲食品類への利用も可能である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とする抗アレルギー剤。

【請求項2】 ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とするヒスタミン遊離抑制剤。

【請求項3】 請求項第1～2項記載の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤の内、何れか1種以上を配合することを特徴とする化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、又はこれらを配合してなるアレルギー性・アトピー性の皮膚炎症疾患（例えば、発赤、湿疹、頭癬、腫脹など）や、肌荒れ、乾燥肌といった皮膚及び頭皮のトラブルの予防並びにその改善に有効で、安全性の高い医薬品・医薬部外品又は化粧品分野の各種の化粧料組成物への応用に関するものである。

【0002】 その利用分野は、例えば、各種の外用製剤類（動物用を使用する製剤も含む）全般において利用でき、具体的には、アンプル状、カプセル状、丸剤、錠剤状、粉末状、顆粒状、固形状、液状、ゲル状又は気泡状の1)医薬品類、2)医薬部外品類、3)局所用又は全身用の皮膚用化粧品類（例えば、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パックなどの基礎化粧品、洗顔料や皮膚洗淨料、マッサージ剤、クレンジング剤、除毛剤、脱毛剤、髪切り処理料、アフターシェーブローション、プレシェーブローション、シェービングクリームなど）、4)頭皮・髪髪に適用する薬用又は/及び化粧用の製剤類（例えば、シャンプー剤、リンス剤、トリートメント剤、パーマメント液、染毛料、整髪料、ヘアートニック剤、育毛・養毛料など）、5)浴湯に投じて使用する浴剤類（例えば、液状、固状・防臭防止剤や衛生用品、衛生綿類、ウエットティッシュなどが上げられる。

【0003】

【従来の技術】 今日、環境条件の悪化や生活様式の変化、社会生活の複雑化にともなうストレスの増加などに伴って、花粉症・アレルギー性鼻炎・気管支喘息・アトピー性皮膚炎・薬物による尋常性などのアレルギー性疾患や、肌荒れ、乾燥肌などに悩ま苦しむ人が増加している。特に、アトピー性皮膚炎は子供のみにならず、成人に及ぶまでの広い年代層でその増加が叫ばれ、現代病のひとつとして注目されている。

【0004】 本来、生体には、体内に侵入した異物（細

菌、花粉、ダニなど：抗原）を排除するために、それに対抗する生体成分（抗体、リンパ球など）を産生して体を守るように働く免疫機能を備えている。ところが、時としてその反応が過敏になるために身体に有害となり、種々の病気の原因となってしまうことがある。この免疫機能による障害反応をアレルギーと呼んでおり、即時型と遅延型に分類されている。

【0005】 アレルギー反応で、発症頻度が高いのは即時型であり、主として免疫グロブリンE (IgE)抗体が関与する反応である。このIgEとは、体内に侵入したアレルギーに対して産生されるものであり、肥満細胞や好塩基球に対して強いエフェクター作用をもち、肥満細胞や好塩基球（白血球の一種）は、ヒスタミンやセロトニンといった薬理的活性アミンを含む顆粒をもつ細胞で、前者は血管周辺や結合組織に、又、後者は血液中に存在している。これらの細胞膜上には、IgE抗体を結合するレセプターが存在しておりIgE抗体と強く結合する性質を有し、肥満細胞や好塩基球に結合したIgE抗体に対し、再び同種のアレルギーが結合すると、顆粒を伴い前述のヒスタミンやセロトニンなどの多数の活性物質がそれら細胞より放出され種々のアレルギー症状を引き起こし、皮膚にかゆみを伴う発赤やふくれあがった発疹（蕁麻疹）がでたり、鼻や目が炎症を起こしてかゆくなり鼻汁や涙の分泌が盛んになるといった症状、或いは気管がつまりたりして呼吸困難の発作を起こしたりする症状（気管支喘息）などは、この型によるアレルギー疾患として分類されている。

【0006】 即時型アレルギーでは、その過程を3段階に大別することができ、それぞれの作用点から各段階毎に分類でき、薬物投与などによりアレルギー疾患の予防、緩和、或いは治療の試みが行われてきた。すなわち、外来性の抗原が体内に侵入すると免疫担当細胞系によってIgE抗体が産生され、IgE抗体は、気道、皮膚、消化器などアレルギー反応の好発部位に分布する肥満細胞や、或いは血中の好塩基球に固着して感作が成立する。これが第1段階と言われる反応である。

【0007】 次にこの感作細胞に対し、再び抗原が接触すると細胞は空胞形成、膨化、顆粒状といった形態学的変化を起こし、ヒスタミン、セロトニン、SRSAなどと呼ばれる化学伝達物質を遊離する。これが第2段階の反応である。

【0008】 そして遊離した化学伝達物質によって気管支筋や消化管などの平滑筋の収縮、毛細血管透過性の亢進、好中球の遊走、血小板の凝集などに作用し、その結果、喘息、腰痛や下痢を伴う消化器アレルギー、鼻アレルギー、蕁麻疹といったアレルギー症状を発現する過程が第3段階の反応である。

【0009】 従って、狭義には第1及び第2段階に作用する薬物は、アレルギー反応に対する予防薬、又、第3段階に作用するものは対症的な治療薬ととらえることが

できる。現在、最も活発に行われている抗アレルギー薬の研究は、この第2段階を抑制する薬物の開発である。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】従来より使用されている抗アレルギー剤の多くは、作用点が比較的確かな即時型アレルギー反応によって引き起こされる疾患に関する薬剤である。例えば、平滑筋を弛緩させる鎮痙薬や毛細血管の透過性の亢進を抑制する交感神経興奮薬、さらには抗ヒスタミン薬などが挙げられるが、これらはいずれも第3段階に作用する対照的治療薬であり、しかも、そのほとんどが合成医薬品であり、副作用の点で問題があった。

【0011】一方、現在最も活発に行われている即時型アレルギー疾患に関与する抗アレルギー剤の研究は、化学伝達物質の遊離を抑制する薬剤、遊離された化学伝達物質に対して拮抗作用を示す薬剤など、第2段階を抑制する薬剤の開発であるが、充分な効力を有するものは見つかっていないのが現状である。

【0012】

【課題を解決するための手段】このような事情に鑑み、本発明者らは、抗アレルギー作用に優れ、かつ副作用がなく人体や皮膚に緩和である物質を、天然物である植物からスクリーニングすることを試みた。その結果、ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの抽出物が安全性が高く、ヒスタミン遊離抑制作用を有することを確認した。よって、ヒスタミン遊離抑制剤として利用すること。又、これら植物抽出物を配合してなるアレルギー性の皮膚炎症疾患（例えば、発赤、浮腫、湿疹など）や、アトピー性皮膚炎、あるいは肌荒れ、乾燥肌といった皮膚・頭皮のトラブルの予防や改善に優れた安全な化粧品組成物を提供することをもって、本発明を完成するに至った。

【0013】

【発明の実施の形態】尚、本発明で使用する「ウヤク：鳥葉、天台烏薬」とは、クスノキ科(Lauraceae)、クロモジ属(Lindera)の植物：テンダイウヤク「*Lindera strychnifolia*(Sieb.et Zucc.)F.Vill. (=Benzoin strychnifolium(Sieb.et Zucc.)O.Kuntze)」の根茎又は根皮、根を用いる。

【0014】「オウゴン：黄ゴン」とは、シソ科(Labiatae)、タツナミソウ属(Scutellaria)の植物コガネバナ(Scutellaria baicalensis Geogi)の根茎又は根皮、根を用いる。

【0015】「カカオ」とは、アオイ科(Sterculiaceae)、カカオ属(Theobroma)の植物カカオ(Theobroma cacao L.)の果実又は果皮、種子を用いる。

【0016】「キジツ：枳実」とは、ミカン科(Rutaceae)、ミカン属(Citrus)の植物：ダイダイ(Citrus aurantium L. var. daidai Makino)、ナツミカン(C. natsudaidai

Hayata)、ユズ(C. junos Sieb. ex Miq.)の未成熟又は成熟した果実、果皮から得られるものを用いるが、その他、同属種のオオベニミカン(C. tangerina hort. ex Tanaka)、キシウミカン(C. kinokuni hort. ex Tanaka)、タチバナ(C. tachibana Tanaka)、フクレミカン/サガミコウジ(C. tumida hort. ex Tanaka)、ボンカン/サンタラ(C. reticulata Blanco)の未成熟又は成熟した果皮、果実を用いることもできる。

【0017】「ケイケツウ：鶏血藤」とは、マメ科(Leguminosae)、トビカズラ属(Mucuna Adans.)の植物ケイケツウ/ムラサキナツツジ(Mucuna birdwoodiana Tutch.)の葉又は茎、枝を用いる。

【0018】「ケイヒ：桂皮」とは、クスノキ科(Lauraceae)、クスノキ属(Cinnamomum Schaeff.)の植物ケイ(Cinnamomum cassia Blume)又はその他同属植物「例えば、ニッケイ(C. sieboldii Meisn.)、シナモム・オブツシフォリウム「C. obtusifolium(Roxb.) Nees」、セIRONニッケイ(C. zeylanicum Nees)、ヤブニッケイ(C. japonicum Sieb. ex Nakai)、タマラニッケイ(C. tanala Nees)、C. sintoc Bl)などの樹皮、幹を用いる。

【0019】「ゲンノショウコ：老鶴草」とは、フロコソ科(Geraniaceae)、フウロウソ属(Geranium L.)の植物ゲンノショウコ(Geranium thunbergii Sieb. et Zucc.)の地上部又は全草を用いる。

【0020】「コウボク：厚朴」とは、モクレン科(Magnolaceae)、モクレン属(Magnolia)の植物ホノノキ(Magnolia obovata Thunberg)、カラホオ(Magnolia officinalis Rehder et Wilsons)、マгноリア・スプレングリ(Magnolia sprengeri Pamp.)又はその他近縁植物(Labiatae)の幹又は枝、樹皮を用いる。

【0021】「ゴシツ：牛膝」とは、ヒユ科(Amaranthaceae)、イノコズチ属(Achyranthes)の植物：ヒナタイノコズチ(A. fauriei Lev. et Van.)、アキランテス・ベデンタータ(A. bidentata Blume)、イノコズチ「A. japonica(Miq.) Nakai」の根又は根茎から得られるものを用いるが、その他、同属種のヤナギノコズチ「A. longifolia(Makino) Makino」、(A. aspera L.)の根又は根茎を用いることもできる。

【0022】「サイシン：細辛」とは、ウマノスズクサ科(Aristolochiaceae)、カンアオイ亜属(Asarum)の植物ウスバサイシン「Asarum sieboldii Miq. (=Asarum sieboldii Miq. F. Maekawa)」、ケイリンサイシン(A. heterotropoides F. Maekawa var. mandshuricum)、オウショウサイシン(A. europaeum L.)の根又は根茎から得られるものを用いるが、その他、同属種のフタバアオイ(A. caulescens Maxim.)、カンアオイ「A. kooyanum Makino var. nipponicum(F. Maekawa) Kitam.」、クロフエサイシン(A. diadiatum)、アツバサイシン(A. maculatum.)の根又は根茎を用いることもできる。

【0023】本発明で使用するウヤク、オウゴン、カカ

オ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの抽出物とは、各々の植物体の各種部位（全草、地上部、果実、果皮、葉、枝、茎、又は幹、樹皮、根茎、根皮、根など）をそのまま或いは粉砕後採取したもの、又は、そのそのまま又は粉砕後、溶媒で抽出したものである。

【0024】抽出溶媒としては、水、アルコール類（例えば、メタノール、無水エタノール、エタノールなどの低級アルコール、或いはプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどの多価アルコール）、アセトンなどのケトン類、ジエチルエーテル、ジオキサン、アセトニトリル、酢酸エチルエステルなどのエステル類、キシレン、ベンゼン、クロロホルムなどの有機溶媒を、単独で或いは2種類以上の混液を任意に組み合わせ使用することができる。又、各々の溶媒抽出物が組み合わせられた状態で使用できる。

【0025】又、ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの各植物抽出物は、応用する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、化粧品組成物の剤型・形態により乾燥、濃縮、或いは希釈などを任意に行い調整すれば良い。

【0026】尚、製造方法は特に制限されるものはないが、通常、常温～常圧下での溶媒の沸点の範囲であれば良く、抽出後は濾過又はイオン交換樹脂を用い、吸着・脱色・精製して溶液状、ペースト状、ゲル状、粉末状とすれば良い。更に多くの場合は、そのままの状態でも利用できるが、必要ならば、その効力に影響のない範囲で更に脱臭、脱色などの精製処理を加えても良く、脱臭・脱色などの精製処理手段としては、活性炭カラムなどを用いれば良く、抽出物質により一般的に適用される通常の手段を任意に選択して行えば良い。

【0027】本発明のウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの各植物抽出物は、抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、化粧品組成物へ配合でき、その配合量としては特に規定するものではないが、抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、化粧品組成物の種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なるが、通常、0.001重量%以上（以下、重量%で表わす）好ましくは0.2～20%が良い。尚、配合量が0.001%より少ないと効果が充分期待できない。

【0028】尚、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、化粧品組成物は、前記の必須成分に加え必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、医薬品類、医薬部外品類、化粧品類などの製剤に使用される成分や添加剤を任意に選択・併用して製造することができる。

【0029】(1)各種油類類

アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、

オリブ油、オレンジ油、オレンジラファール油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、ククイナツツ油、サフラワー油、シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、パシク油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タートル油、ミンク油、卵黄油、パーム油、パーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）など。

【0030】(2)ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス、スクワレン、スクワラン、プリスタンなど。

【0031】(3)鉱物類

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケライド、セレシン、マイクロクリスタンワックスなど。

【0032】(4)脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸などの天然脂肪酸、イソノナン酸、カプロン酸、2-エチルブタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸などの合成脂肪酸。

【0033】(5)アルコール類

エタノール、イソプロパノール、ラウリルアルコール、ステアロアルコール、オレイルアルコール、ラノリルアルコール、コレステロール、フィトステロールなどの天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクチルデカノールなどの合成アルコール。

【0034】(6)多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、ペンタエリトリール、ソルビール、マンニトールなど。

【0035】(7)エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルデシル、ジメチルオクタノールヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコ

ールなど。

【0036】(8)金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、パルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛など。

【0037】(9)ガム質、糖類及び水溶性高分子化合物

アラビアゴム、ベンゾインゴム、ダンマルゴム、グアヤク脂、アイルランド苔、カラヤゴム、トラガントゴム、キャロブゴム、クインシード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖及びそのエステル、トレハロース及びその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ペクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレンオキサイドなどのアルキレン(C2～C4)オキサイドが付加されたヒドロキシアルキル(C2～C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸及びその塩、ヒアルロン酸及びその塩、コンドロイチン硫酸及びその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシエチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、ポリビニルメタクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエチレンオキサイドやポリプロピレンオキサイドなどのポリアルキレンオキサイド又はその架橋重合体、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレニミンなど。

【0038】(10)界面活性剤

アニオン界面活性剤(アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩)、カチオン界面活性剤(アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩)、両性界面活性剤:カルボン酸型両性界面活性剤(アミノ型、ペタイン型)、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤(エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含窒素型非イオン界面活性剤)、その他の界面活性剤(天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、フタヒ炭素系界面活性剤)など。

【0039】(11)各種ビタミン類

ビタミンA群:レチノール、レチナール(ビタミンA1)、ジヒドロレチナール(ビタミンA2)、カロチン、レコピン(プロビタミンA)、ビタミンB群:チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩(ビタミンB1)、リボフラビン(ビタミンB2)、ピリドキシン(ビタミンB

6)、シアノコバラミン(ビタミンB12)、葉酸類、ニコチン酸類、パントテン酸類、ビオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群:アスコルビン酸及びその誘導体、ビタミンD群:エルゴカルシフェロール(ビタミンD2)、コレカルシフェロール(ビタミンD3)、ジヒドロタキステロール、ビタミンD群:トコフェロール及びその誘導体、ユビキノリン、ビタミンK群:フィトナジオン(ビタミンK1)、メナキノ(ビタミンK2)、メナジオン(ビタミンK3)、メナジオール(ビタミンK4)、その他、必須脂肪酸(ビタミンF)、カルニチン、フェルラ酸、 γ -オリザノール、オロト酸、ビタミンP類(ルチン、エリオシトリン、ヘスペリジン)、ビタミンUなど。

【0040】(12)各種アミノ酸類

バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システイン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オルニチン、ヒスチジンなどや、それらの硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、或いはピロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘導体など。

【0041】(13)植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工(例えば、粉碎、製粉、洗浄、加水分解、醗酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色)などを任意に選択、組合せた処理)を行い、各種の素材から任意に選択して供すれば良い。

【0042】尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、あるいは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、水溶性有機溶媒(例えば、エタノール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなど)の中から選ばれた1種もしくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したり、あるいは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液を用いたりすれば良く、又、搾り出したものでも良い。

【0043】尚、植物又は動物系原料由来の添加物を、全身用又は局所用の外用剤、化粧品類に供する場合、皮膚や頭髮の保護をはじめ、保湿、感熱、感湿の改善、柔軟性の付与、刺激の緩和、芳香によるストレスの緩和、細胞賦活(細胞老化防止)、炎症の抑制、肌質・髪質の改善、肌荒れ防止及びその改善、発毛、育毛、脱毛防止、光沢の付与、清浄効果、疲労の緩和、血流促進、温浴効果などの美容的効果のほか、香付け、消臭、増

粘、防腐、緩衝などの効果も期待できる。

【0044】原料とする具体的な植物(生薬)としては、例え、アモーンバ(へん橘)、アド(藍葉)、アオカズラ(清風藤)、アオキ(青木)、アオギリ・ケナシアオギリ(栝樹)、アオツツラフジ(木防己)、アカシア、アカシヨウマ(赤升麻)、アスダグリー果実、アカブドウ、アカミノキ(ログウッド)、アカメガシワ(赤芽柏)、アカネ(茜草根)、アカヤジウ・ジウ(地黄)、アギ(阿魏)、アキニレ(榔榆皮)、アケビ(木通)、アサ(麻子仁)、マルバアサガオ又はアサガオ(牽牛子)、アジサイ(紫陽花)、アマチャ(甘茶)、アシタバ(明日葉)、アマナ(光慈姑)、アズキ(赤小豆)、アセロラ、アセンヤク(阿仙葉)、アニス、アベマキ果実、アボカド、アマ、アマチャ(甘茶)、アマチャヅル、アマドコロ(玉竹)、アマランサス(ヒユ、ハゲイトウ、ヒメグイトウ、センニンコク、スギモリグイトウ、ホソアオグイトウ、アオグイトウ、ハリビユ、アマラントウス・ヒボコンディアクス)、アミガサユリ・バイモ(貝母)、アルデア、アルニカ、アルビニア・カツタダイ(ソウズク)、アロエ(蘆薈)、アロエベラ、アンジェリカ、アンズ・ホンアンズ(杏仁)、アンソウコウ(安息香)、イガコソソリナ(地胆頭)、イカリソウ・ヤマトイカリソウ(インヨウカク)、イグサ(灯心草)、イタドリ(虎杖根)、イチイ(一位)、イチゴ、イチジク(無花果)又はその葉、イチハツ(一初)、イチビ(冬葵子)、イチヤクソウ(一葉草)、イチヨウ(銀杏葉、銀杏)、イトヒメハギ(遠志)、イナゴメ、イヌナズナ(テイレキシ)、イヌビユ(ホナガイヌビユ)、イネ種子又は種皮は種皮、イノンド種子、イブキヤクソウソウ、イラクサ、イランイラン、イワタバコ(岩菖蒲)、イワヒバ・イワマツ(蒼柏)、ウーロン茶、ウイキョウ(茴香)、ウキヤガラ(三稜)、ウグイスカグラ果実、ヒメウイキョウ、ウコン(鬱金)、ウキクサ(浮萍)、ウスベニアオイ、ウスベニタチアオイ、ウツボグサ(夏枯草)、ウド又はシシウド(羌活、独活、唐独活)、ウメ(烏梅)又はその果肉、ウラジロガシ、ウワルシ(クサコメキ)、ウシユウミカン(陳皮)、エストラゴン、エゾウコギ(蝦夷五加)、エチナシ(ホソバムササキバレンギク)、エニシダ、エノキタケ(榎茸)、エビスガサ/カッサー・トーラ(決明子)、エルダーベリー果実、エレミ、エリンギ(プレロータスエリンギ)、エンジュ(槐花、槐花実)、オウギ・キバナオウギ(黃耆)、オウレン(黃連)、オオカズリ(カニオン)、オオグルマ(土木香)、オオツツラフジ(防己)、オオバコ(車前子、車前草)、オオハシバミ(榛子)、オオバナオケラ・オケラ(白朮)、オオヤシヤブシ果実、オオミサンザシ・サンザシ(山査子)、オウセイ(ナルコユリ、カギクマルバナルコユリ)、オウヒササノユキ、ササノユキ、オオムギ(大麦)、オオホシガサ(穀精草)、オカゼリ(蛇床子)、オグルマ(旋覆)、オクラ果実、オタネニンジン・トチバニンジン(人參)、オトギリソウ・コ

ゴメバオトギリソウ・セイヨウオトギリソウ(第切草)、オドリコソウ(統断)、オナモミ(蒼耳子)、オニグルミ、オニドコロ・トコロ・ナグドコロ(ヒカヤ)、オノノヤガラ(天麻)、オニユリ・ササユリ・ハカタユリ(百合)、オノニス、オヒョウ(製菓楠)、オミナエシ(敗醬)、オランダカラシ(クレソン)、オランダゼリ、オランダミツバ、オリブ(果実、種子、葉)、オレガノ、オレングリ果実又は果皮、カイケイジウ(熟地黄)、カキ又はその葉(柿蒂)、カギカズラ(釣鐘藟)、カキドオシ・カントリソウ(連銭草)、カシヤ、カジノキ果実(栲実)、ガジュツ(莢朮)、カシワ(榲桲、榲桲葉)、カスカリヤ、カスカラグラダ、カニクサ(金沙藤)、カノコソウ(吉草根)、カバノキ又はシダレカンバ(白樺)、カボチャ、カボックノキ種子、カホクサンショウ(蜀椒)、ガマ(蒲黄)、カミツレ・ローマカミツレ、カミヤツデ(通草)、カムカム/カモカモ、カラスウリ・シナカラスウリ(王瓜)、カラスビシャク(半夏)、カラスムギ、ガラナ種子、カラヤ、カリ(木瓜)、ガルシニア、カワミドリ、カワラナシ(委陵菜・翻白草)、カワヂシャ、カワラタケ、カワラナデシコ(石竹)・エゾカワラナデシコ(瞿麦、瞿麦子)、カワラニンジン(青蒿)、カワラヨモギ(蕺生蒿)、カンズイ(甘遂)、カンゾウ(甘草)、カンタラアサ、カンデリラ、カントウ、カンナ、キイチゴ(エゾイチゴ、オランダイチゴ、エビガライチゴ、ナワロイチゴ、モミイチゴ、ヨーロッパイチゴ)、キウイ果実、キカラスウリ(瓜呂根)、キキョウ(桔梗、桔梗根)、キク(菊花、シマカンギク、チョウセンノギク)、キサダ(梓実)、シシギシ(羊蹄根)、キズタ、キダチアロエ、キダチハツカ、キナ、キナノキ(シンコーナ、アカキナノキ)、キハダ(黄柏)、ギムネマ・シルベスタ、キャベツ、キャベブ未熟果、キュウリ、ギョリュウ(西河柳・てい柳)、キラジャ・サボナリア、キラヤ、キンソウ(金龜小葉)、キンカン果実、キンマ、キンズミヒ(仙鶴草)、グアバ果実、グアユレ、ケルケス・インフェクトリア(没食子)、ククイナツツ、クコ(枸杞、枸杞子、枸杞葉、地骨皮)、クサダマ(天門冬)、クサ(葛根)、クスノキ、グースベリー果実、クソニンジン(黃花蒿)、クチナシ(山梗子)、クスギ(樺子)、クマザサ、クマツツラ(馬鞭草)、クララ(苦參)、クランベリー果実、クリ又はその果皮、クルクリゴ・ラチフォリア果実、グレープフルーツ、クロウモドモキ、クログネモチ(救必應)、クロバチヒキコシ、クローブ(丁子、丁香)、ダンバイナズナ(セキメイ、セキメイシ)、ケイガイ(前片、前片穂)、ケイトウ(冠冠花、雞冠子)、ゲツケイジュ(月桂樹)、ケナサルトリイバラ(土茯苓、山柰米)、ゲンチアナ、ケンボナシ(キダチ)、コウキセツコ、コウジ、コウシンバラ(月季花)、コウスイハツカ、コウジ果実、コウチャ(紅茶)、コウホネ(川芎)、コウホン(藜蘆、唐藜蘆)、コウリヤン、コウリョウキョウ(高良姜)、コエンドロ果実、コオレン(胡黃連)、コ

ケモモ(越橘), ココヤシ果実, ゴシュウ(呉茱萸), ゴシ
 ヨイチゴ(覆盆子), ショウウ(胡蘆), コバイハバルサ
 ム, コーヒー豆, コブシ・モクレン(辛夷), ゴボウ(牛
 蒡, 牛蒡子), コボタンヅル, ゴマ(胡麻), ゴマノハダ
 サ(玄参), ゴミシ(五味子)・サネカズラ・ビナンカズ
 ラ・マツバサ, コムギ(小麦), 米・米糠(赤糠, 白糠)・
 コメ油, コーラ・アケミナタ種子, コーラ・ペラ種子,
 コロハ果実, コンボボ, コンズランゴ, コンボ, コンニ
 ャク, コンフリー(酢漿草), サイザル(サイザルア
 ナ), サキシマボタンヅル・シナボタンヅル・シナセン
 ニソウ(威靈仙), サクラ(オシマザクラ, ヤマザク
 ラ, オオヤマザクラ, エドヒガシ, マメザクラ, ミヤマ
 ザクラ, ソメイヨシノ, タカネザクラ, カスミザクラ,
 チョウジザクラ, コヒガン, サトザクラ, カンザクラ)
 の葉・花・果実・樹皮(桜皮), サクランボ, ザクロ, サ
 サ, サザンカ, サジオモダカ(沢蘭), サツマイモ, サト
 ウキビ, サトウダイコン, サネボトナツメ(酸漿仁), サ
 プラン(番紅花, 西紅花), ザボン果実, サボンソウ, サ
 モンベリ果実, サラシナショウマ(升麻), サルビア
 (セージ), サワギキョウ(山梗菜), サワグルミ(山胡
 桃), サンシクヤウソウ, サンシチニンセン(三七人
 参), サンシュウ(山藥), サンショウ(山椒), サンズ
 コン(山豆根), シア(カレテ), シアノキ果実, シイタク
 (椎茸), シンク(紫苑), シンタリス, シンクン(使君
 子), シン・アオジツ・チリメンジツ・カタメンジツ(紫
 蘇葉, 紫蘇子), シタン, シナノキ, シナホノノキ, シ
 ナレンギョウ(連翹), シメジ(ヒシメジ, シヤカシメ
 ジ, ハタケシメジ, オシロイシメジ, プナシメジ, シロ
 タモギタケ), シモツクソウ, ジャガイモ, シヤクヤク
 (芍薬), シヤジツ(沙参), ジャノヒゲ(麦門冬), シュク
 シャミツ(砂仁, 縮砂), ジュズダマ, シュロ果実, ショ
 ウガ(生薬), ショウザンアジサイ(常山), ショウブ
 (菖蒲, 菖蒲根), ショズク果実, シラカシ種子, シロゴ
 チョウの種子, シロトウズキ(鵝骨草), シロバナリ
 ス(ニオイリス), シロバナツツタの花, シロミナン
 デン(南天実), シンコナサケルプラ, ジンチョウゲ
 (瑞香, 瑞香花, 沈丁花), シンナモン, スイカ(西
 瓜), スイカズラ(金銀花, 忍冬), スイバ(酸模), スイ
 モリ果実, ステビア, ストロベリー果実, スズサイ
 コ(徐長卿), スギナ(間桐), スベリヒユ(馬齒けん,
 馬齒けん子), スモモ果実, セイヨウアカマツの球果,
 セイヨウカラマツ, セイヨウキズタ, セイヨウグルミ,
 セイヨウサンザシ, セイヨウタンボク, セイヨウトチノ
 キ(マロニエ), セイヨウナシ果実, セイヨウナツユキソ
 ウ, セイヨウニワトコ(エルダー), セイヨウネズ(ジ
 ユンバー・杜松), セイヨウノコギリウツ(ミルフォ
 イル), セイヨウバヤ, セイヨウフウチョウボク, セイヨ
 ウキドリギ, セイヨウハッカ・セイヨウヤマハッカ, セ
 イヨウササビ, セキショウ(石菖蒲), セッコク(石斛),
 セニアオイ, ヒロハセネギ, セネギ, セリ, セロリ, セ

ンキョウ(川キョウ), センシンレン(穿心連), センダ
 ン, センブリ(当薬), センナ果実又は葉, センニンソウ
 (大蓼), ソウカ(草蓼), ソバ種実, ソメモノイモ, ダイ
 オウ(大黃), 大根, 大豆, タカサブロウ(旱蓮草), タ
 カトウダイ(大戟), タカラバビ(海狗), ダークスイート
 チェリー果実, タチアオイ, タチジャコウソウ(タイ
 ム, 百里香), タチドコロ(ヒカヤ), タチヤナギ, タ
 マリンド種子, タマネギ, タムシバ(辛夷), タラノキ又
 はその根皮, タンジン(丹参), タンポポ(蒲公英)又はシ
 ロバナタンポポ・モウコタンポポ, ダンラン, チェリー
 果実, チガヤ又はその根(茅根), チクセニンジン(竹
 節人參), チコリ, チョウセンゴミシ(五味子), チョウ
 センダイオウ(大黃), チョウセンニレ(熊夷), チョウセ
 ニニンジン(人參), チョウセンモギ(艾葉), チョレイ
 マイタケ(猪苓), ツキミソウ, ツクリタケ(マッシュル
 ーム), ツバキ, ツボクサ, ツメクサ(漆姑草), ツユク
 サ(鴨跖草), ツルアズキ(赤小豆), ツルダクダミ(何首
 烏), ツルナ(蕎麥), ツルニンジン(四葉参), ツワブ
 キ, デイコ, テウチグルミ, デュベリ果実, テンダ
 20 サ, テンチャ(甜茶), トウガ(冬瓜子), トウカギカズ
 ラ, トウガラシ(番椒), トウキ(當歸), トウキンセンカ
 (マリーゴールド), トウナベナ(川断), トウモロコシ
 又はトウモロコシ毛(南廬毛), トウネズミモチ(女貞
 子), トウリンドウ・チョウセンリンドウ(竜胆), トク
 サ(木賊), ドクダミ(十葉), トコン(吐根), トシシ
 マメダオシ(ネギサズラ), トチュウ(杜仲, 杜仲葉),
 トネリコ(素子), トマト, トラガント, トリアカソ
 ス種子, トルメンチラ, ドロノキ, トロロアオイ, ナイ
 ゼリアベリー果実, ナガイモ・ヤマノイモ(山藥), ナギ
 イカダ(ブツチャーブルーム), ナギナタコウシュ, ナズ
 ナ, ナタネ, ナタマメ・タテハキ(刀豆), ナツメ(大
 棗), ナニワバラ(金縷子), ナベナ(続断), ナメ
 コ, ナルコユリ(黄精), ナンキンマメ(落花生), ナンテ
 ン(南天実), ナンバンカラムシ(苧麻), ニガキ(苦
 木), ニガヨモギ(苦苣), ニクズク, ケイシ(桂枝), ニラ
 (韭菜), ニワトコ(接骨木)の果実・花又は莖葉, ニン
 ニク(大蒜), ヌルデ(五倍子), ネギ, ネムノキ・ネブ
 ネビ・ネムリノキ・ジゴクバナ(合歡), ノアザミ(大
 薊), ノイバラ(宮実), ノコギリソウ, ハチク(前胡),
 ノバラ, ノモモ, ノーム, バイナツル果実, ハイビス
 カス(ブソウゲ, フウリンブソウゲ, ローゼル), ハ
 カマウボシ(骨碎補), ハクセン(白薇皮), ハクルベリ
 ー果実, ハコベ(繁縷), ハシバミ(榛子), ハシリドコロ
 (ロト根), バジル, ハス(蓮, 蓮肉, 蓮子), バセリ
 (オランダゼリ), ハダカミギ, バタタ, ハチク・マダケ
 (竹筴), パチョリー, ハッカ(薄荷, 薄荷葉), ハトムギ
 (ヨクイニン), ハナスダケ(知母), パナナ, ハナハッカ,
 ハナビシ(ツツリ, シシツリ), バニラビズン, ハバ
 イヤ, ハハコガサ(鼠麴草), ハブ草, ハブリカ, ハマゴ
 ウ・ミツバハマゴウ(蔓荆子), ハマサダ(番附子), ハマ

ピン(シツリ子)、ハマナス(イカイ花)、ハマボウフウ(浜風)、ハマメリス、バラ(薔薇)、ハラタケ(ハラタケ、シロオハラタケ、ウスキモリノカサ)、ハラン、ハルエタリア、ハルニレ(榆皮、橘皮、橘葉)、ハンダイカイ(胖大海)、バンノキ、ヒオウギ(射干)、ヒカゲツルニンジン(党参)、ピーカンナツツ、ヒガンバナ(石蒜、曼珠沙華)、ヒキオコサ(延命草)、ヒシ(菱葉)、ビスタチオ、ビート、ヒトツバ(ワサリ)、ヒトツバエニシダ、ヒノキ、ヒバ、ヒマシ、ヒマワリ、ピーマン、ヒメウス(天葵)、ヒメガマ(香蒲)、ヒメマツタケ(カワリハラタケ、ヒロマツタケ)、ヒメタン果実、ビャクシ、ビャクシウ、ヒユ果実、ヒロウドアオイ、ヒロハオキナグサ(白頭翁)、ビワ(枇杷、枇杷葉)、ビンロウ(大服皮、橘櫛子)、フウトウカズラ(南藤)、フキ、フキタンボボ(款冬花、款冬葉)、フジバカマ(蘭草)、フジマメ(扁豆)、ブドウ果実(果皮・種子・葉、ブナ、フコムシツクサタケ(冬虫夏草)、ブラジルカンゾウ、ブラジルニンジン、ブラックカーラント果実、ブラックベリー、ブルム果実、フルセラリア、ブルーベリー(セイウヒメスノキ)、ブルー、ブロードサイリウム、ブンドウ(緑豆)、ヘチマ、ベニバナ(紅花)、ヘネケン、ペラドンナ、ベリー果実、ペルビアンバグ、ベンケイソウ・イキクサ(景天)、ボイセンベリー果実、ホウキギ・ニワクサ・ネンドウ・ハハキギ・コキア(地膚子)、ホウセンカ(鳳仙・急性子・透骨草)、ホウフウ(防風)、ホウレンソウ、ホオズキ(登呂根)、ホオノキ(和厚朴、朴)、ボケ(木瓜)、ソバナオケラ(蒼白)、ソバナノキリンソウ(景天三七)、ソバナバレンギク、ボダイジュ(苦瓠樹)、ボタン(牡丹、牡丹皮)、ホップ、ホホバ、ホワートルベリー果実、ホンオニク(肉じゅむ、大芸)、ホンシメジ、ホンセッコク(鉄皮石斛、雀山石斛)、マイズルテンナンショウ(天南星)、マイタケ(舞茸)、マオウ(麻黄)、マカデミアナツツ、マクリ(海人草)、マクワ(桑白皮、桑葉)、マクタブ(木天蓼)、マウカサ、松葉、マツホド(茯苓)、マヨラム(ハナハッカ)、マルパノジャジン(苦参)、マルベリー果実、マルメロ、マンゴー、マンゴスチン、マンシュウグルミ、マンダリン果実、マンネンタケ(靈芝)、ミカン属植物果実(枳実)、ミシマサイコ(紫胡)、ミズオハコ・ミズアサガオ(竜舌草)、ミゾカクシ(半辺蓮)、ミソハギ(千屈菜)、ミチヤナギ・ニワヤナギ(薔薇)、ミツガシワ、ミツバ、ミドリハッカ、ミザサ、ミウガ、ミラクルフルーツ果実、ミルラ、ミロバラン、ムクゲ(木槿)、ムクノキ、ムクロジ、ムラサキ(紫根)、ムラサキキギ・オオムラサキキギ(紫珠)、ムラサキトウモロコシ、ムラサキナツツジ(昆明鵝血藤)、メハジキ(益母草)、メボウギ、メラロイカ、メリッサ、メリロート、メロン果実、モウコヨモギ、モウコウチク、モッコウ(木香)、モミジバダイオウ、モモの葉(桃葉)・果実・種(桃仁)、モヤシ、モレロチエリー果実、モロヘイヤ(黃葵)、ヤカワムラサキイモ、ヤクチ

(益智)、ヤグルマソウ(ヤグルマギク)、ヤグルマハッカ、ヤシャブシ(矢車)／メメヤシャブシ／オオバヤシャブシの果実、果皮、果穂、ヤチヤナギ、ヤツデ(八角金盤)、ヤドリギ(槲寄生)、ヤナギ(カワヤナギ、タチヤナギ、シダレヤナギ、アカメヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ウツリウヤナギ、ミヤヤナギ、ヤマヤナギ、オオバヤナギ、タイリクキヌヤナギ、キツネヤナギ、ドロノキ)、ヤナギタデの葉、ヤブガラシ、ヤブコウジ(紫金牛)、ヤブタバコ(鶴鴉・天名精)、ヤマゴボウ(尚陸)、ヤマハノキ(山樺)、ヤマモモ(福寿果)、ヤマモモギ、ユーカリ、ユキノシタ(虎耳草)、ユッカ・フレビフォリア、ユリ、ヨロイグサ、ヨモギ(艾葉)、ライガン(雷丸)、ライム果実、ライム、ラカンカ果実、ラズベリー・果実、ラタニア(クラメリア)、ラッキョウ・エシヤロコト(薤白)、ラベンダー、リュウガン(竜眼果)、リュウゼツラン(アオノリュウゼツラン、フクリンリュウゼツラン)、リョクチャ(綠茶)、リング果実、リンドウ、ルバス・スバシムス(甜涼)、レイシ(荔枝、荔枝核)、レタス(チシャ)、レッドカーラント果実、レモン果実、レンゲラタ、レンギョウ(連翹・レンギョウ、シナレンギョウ)、レンゲソウ、ロウヤシ、ロコン(ヨシ・蘆根)、ローガンベリー果実、ローズベリー(マンネンロウ)、ローズヒップ(ノバラ)、ワサビ、ワレモコウ(地榆)などが上げられる。

【0045】又、その他の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩(塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウムなど)、海泥・泥(ファンゴ)類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルファンゴ、フライブルグファンゴなどの各地の海泥又は泥(二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガシ、ヒ素、セ、ビタミンB、ビタミンA、植物性ホルモン「ジベルリン、シトキニン、アブジシン」など)、

【0046】海藻類としては、海藻【緑藻類：クロレラ・ブルガリス、クロレラ・ビレノイダサ、クロレラ・エリプソイデア、アオノリ(ウスバアオノリ、スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ホソエダアオノリ)】、海藻【褐藻類：コンブ(マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコンブ)、ワカメ、ヒロメ、アオワカメ、ジャイアントケルプ(マクロシステリス・ピリフェラ、マクロシステリス・インテグリアフォア)、ネオシステリス・ルエテアケアナ)、ヒジキ、ヒバマタ】、海藻【紅藻類：ヒジメイウ、マクサ(テングサ)、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、ヤタバグサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、トゲキリ

ンサイ、アマクサキリンサイ、キリンサイ、ビャクシン
 キリンサイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャカ(ヤ
 ハズツノマタ)、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒラコ
 トジ、コトジツノマタ、スギノリ、シキンノリ、カイノ
 リ、イボツノマタ、ヤレウスバノリ、カギウスバノリ、
 スズウスバノリ、ハイウスバノリ、アカモジノリ」な
 どが代表的なものとして上げられる。

【0047】又、その他の藻類、例えば、緑藻類(クラ
 ミドモナス属:クラミドモナス、アカユキモ、ドウナリ
 エラ属:ドウナリエラ、クロロコッカス属:クロロコッ
 カス、クワノミモ属:クワノミモ、ボルボックス属:オ
 オヒゲマワリ、ボルボックス、バルメラ属、ヨツメモ
 属、アオミドロ属:ヒザロリ、アオミドロ、ツルギミド
 ロ属、ヒビミドロ属:ヒビミドロ、アオサ属:アナアオ
 サ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属:カワノリ、
 フリッチエラ属、シオグサ属:オオシオグサ、アサミド
 リシオグサ、カワシオグサ、マリモ、パロニア属:タマ
 ゴパロニア、タマパロニア、マダタマモ属:マダタマ
 モ、イワツタ属:フサイワツタ、スリコギツタ、ヘライ
 ワツタ、クロキツタ、ハネモ属、ミル属:ミル、クロミ
 ル、サキバノリ属、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属:
 カサノリ、ジュズモ属:フトジュズモ、タマジュズモ、
 ミゾジュズモ、ミカヅキモ属、コレカエテ属、ツヅミモ
 属、キッコウガ属:キッコウガサ、ヒトエダ属:ヒト
 エダサ、ヒロハノヒトエダサ、ウスヒトエダサ、モツ
 キヒトエ、サヤミドロ属、クンショウモ属、スミレモ
 属:スミレモ、ホシミドロ属、フシナシミドロ属など)。

【0048】藍藻類(イセイゼンノリ属:イセイゼンノ
 リ、アオコ属、ネンジュモ属:カワタケ、イシクラゲ、
 ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ(スピリナ)属:スピリ
 ナ、トリコデスミウム(アイアカシ)属など)。

【0049】褐藻類(ピラエラ属:ピラエラ、シオミド
 ロ属:ナガミシオミドロ、イソブドウ属:イソブドウ、
 イソガワラ属:イソガワラ、クロガシラ属:ダンセンク
 ロガシラ、カシラザキ属:カシラザキ、ムチモ属:ムチ
 モ、ヒラムチモ、ケベリガサ、アミジガサ属:アミジガ
 サ、サキヒロアミジ、サナダガサ属:サナダガサ、フク
 リンアミジ、コムジガサ属:コムジガサ、ヤハズガサ
 属:エゾヤハズ、ヤハズガサ、ウラボシヤハズ、ジガミ
 ガサ属:ジガミガサ、ウミウチワ属:ウミウチワ、コナ
 ウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミマクラ属:ヒルナ
 ミマクラ、ソメワケガサ属:ソメワケガサ、ナバリモ
 属:ナバリモ、チャウソウメン属:モツキチャウソウメン、
 マツモ属:マツモ、ナガマツモ属:ナガマツモ、オキナ
 ワモズク属:オキナワモズク、ニセフトモズク属:ニセ
 フトモズク、フトモズク属:フトモズク、イシモズク
 属:イシモズク、クロモ属:クロモ、ニセモズク属:ニ
 セモズク、モズク属:モズク、イシゲ属:イシゲ、イロ
 ロ、イチメダガサ属:イチメダガサ、ケヤリ属:ケヤリ、ウ

ミボックス属:ウミボックス、ウルシガサ属:ウルシガサ、
 ケウルシガサ、タバコガサ、コンブモドキ属:コンブモ
 ドキ、ハバモドキ属:ハバモドキ、ハバノリ属:ハバノ
 リ、セイヨウハバノリ属:セイヨウハバノリ、コモンプ
 クロ属:コモンプクロ、エゾフクロ属:エゾフクロ、フ
 クロノリ属:フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ
 属:チシマフクロノリ、カゴメノリ属:カゴメノリ、ム
 ラリドリ属:ムラチドリ、サメズグサ属:サメズグサ、
 イワヒゲ属:イワヒゲ、ヨコジマノリ属:ヨコジマノ
 リ、カヤモノリ属:カヤモノリ、ウイキョウモ属:ウイ
 キョウモ、ツルモ属:ツルモ、アナメ属:アナメ、スジ
 属:スジメ、ミスジコンブ属:ミスジコンブ、アツバ
 ミスジコンブ、コンブ属:ガツガラコンブ、カキジマコ
 ンブ、オニコンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンド
 ウコンブ、オオチチミコンブ、トロロコンブ属:トロ
 ロコンブ、アントクメ属:アントクメ、カジメ属:カジ
 メ、ツルアラメ、クロメ、キクイシコンブ属:キクイシ
 コンブ、ネジレコンブ属:ネジレコンブ、クロシオモ
 属:クロシオモ、ネコアシコンブ属:ネコアシコンブ、
 アラメ属:アラメ、アイヌワカメ属:アイヌワカメ、チ
 ガイソ、オニワカメエゾイシゲ属:エゾイシゲ、ヤハネ
 モク属:ヤハネモク、ラッパモク属:ラッパモク、ジョ
 ロモク属:ウガノモク、ジョロモク、ヒエモク、ホンダ
 ワラ属:タマナシモク、イソモク、ガシラモク、アカ
 モク、シダモク、ホンダワラ、ネジモク、ナラサモ、マ
 メタワラ、タツクリ、ヤツマタモク、ウミトラノオ、オ
 オバモク、フシズシモク、ハハキモク、トゲモク、ヨレ
 モク、ノコギリモク、オオバノコギリモク、スギモク
 属:スギモク、ウキモ属:オオウキモ、ブルウキモ属:
 ブルウキモ、カヤモノリ属:カヤモノリなど)。

【0050】紅藻類(ウシケノリ属:ウシケノリ、フノ
 リノウシケ、アマノリ属:アサクサノリ、スサビノリ、
 ウッブルイノリ、オニアマノリ、タサ、フリタサ、ベ
 ニタサ、ロドコルトン属:ミルノベニ、アケボノモズク
 属:アケボノモズク、コナハダ属:ハイコナハダ、ゴゴ
 レコナハダ、オオコナハダ、ウミゾウメン属:ウミゾウ
 メン、ツクモノリ、カモガシラノリ、ベニモズク属:ベ
 ニモズク、ホソベニモズク、カサマツ属:カサマツ、フ
 サノリ属:フサノリ、ニセフサノリ属:ニセフサノリ、
 ソデガラミ属:ソデガラミ、ガラガラ属:ガラガラ、ヒ
 ラガラガラ、ヒロハタマイタダキ属:ヒロハタマイタダ
 キ、タマイタダキ属:タマイタダキ、カギケノリ属:カ
 ギノリ、カギケノリ、テングサ属:ヒメテングサ、ハイ
 テングサ、オオブサ、ナンブダサ、コヒラ、ヨヒラ、キ
 スクサ、ヒビロウハ属:ヒビロウハ、ヒメヒビロウハ、
 イソムメモドキ属:イソムメモドキ、ミチガエソウ属:
 ミチガエソウ、リュウモンソウ属:リュウモンソウ、ヘ
 ラリュウモン、ニセカレキダサ属:ニセカレキダサ、オ
 キツバラ属:オオバキツバラ、アカバ属:アカバ、マ
 ルバアカバ、ナミノハナ属:ホノバナミノハナ、ナミノ

ハナ、サンゴモドキ属：ガラガラモドキ、シオグサゴロモ属：シオグサゴロモ、イワノカワ属：エツキイワノカワ、カイノカワ属：カイノカワ、カニノテ属：カニノテ、サンゴモ属：サンゴモ、ムカデノリ属：ムカデノリ、スジムカデ、カタノリ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、サクランノリ、ニクムカデ、タンバノリ、ツルツル、イソノハナ属：スラクサ、クロスラクサ、オオムカデノリ、ヒラキントキ属：ヒラキントキ、マタボウ属：マタボウ、キントキ属：チャボキントキ、キントキ、マツノリ、コメノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、カクレイト属：オオバキントキ、イトフノリ属：イトフノリ、ナガオバネ属：ナガオバネ、フノリ属：ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリ、カレキダ属：カレキダ、トサカモドキ属：ホソバトサカモドキ、ヒロハノトサカモドキ、ヤツデガタトサカモドキ、クロトサカモドキ、ネザシノトサカモドキ、キヌハダ属：キヌハダ、エゾトサカ属：エゾトサカ、ツカサノリ属：エナシカリメニア、オオツカサノリ、ハナガタカリメニア、ホウノオ属：ホウノオ、ヒカゲノイト属：ヒカゲノイト、ウズギス、ニクホウノオ属：ニクホウノオ、ベニスナゴ属：ベニスナゴ、ススカケベニ属：ススカケベニ、オカムラダ属：ヤマダダ属、ミリン属：ミリン、ホソバミリン、トサカノリ属：キクツサカ、エゾナメシ属：エゾナメシ、イソモッカ属：イソモッカ、ユカリ属：ユカリ、ホソユカリ、イバラノリ属：イバラノリ、サイダイバラ、タチイバラ、カギイバラノリ、キジノオ属：キジノオ、イソダンツウ属：イソダンツウ、アツバノリ属：アツバノリ、オゴノリ属：オゴノリ、ツルシラモ、シラモ、オオオゴノリ、ミゾオコノリ、カバノリ、テングサモドキ属：ハチジョウテングサモドキ、フシクレノリ属：フシクレノリ、ナミイワタケ属：ナミイワタケ、カイメンソウ属：カイメンソウ、オキツノリ属：オキツノリ、サイミ属：イタニダサ、サイミ、ハリガネ、ハスジダ属：ハスジダ、スギノリ属：イカノアシ、ホイボノリ、ノボノリ、クロハギナンソウ属：クロハギナンソウ、アカハギナンソウ属：アカハギナンソウ、ヒシブクロ属：ヒシブクロ、マダラダ属：トゲマダラ、エツキマダラ、タオヤギソウ属：タオヤギソウ、ハナサクラ、フクロツナギ属：フクロツナギ、スジコノリ、ハナノエダ属：ハナノエダ、ヒラタオヤギ属：ヒラタオヤギ、ダルス属：ダルス、マサゴシバリ、アナダルス、ウエバダ属：ウエバダ、ベニフクロノリ属：ベニフクロノリ、フツツナギ属：フツツナギ、ヒメフツツナギ、ヒロハフツツナギ、ワツツナギ属：ヒラワツツナギソウ、ウスバワツツナギソウ、イギス属：イギス、ケイギス、ハリイギス、ハネイギス、アミクサ、エゴノリ属：エゴノリ、フトイギス、サエダ属：サエダ、チリモミ属：チリモミ、コノハノリ科：ハバタエノリ、コノハノリ、スズシロノリ、ウスベニ属：ウスベニ、ハスジギタ属：ハスジギタ、ナガコノハノリ属：ナガコノハノリ、スジギタ

属：スジギタ、アツバスジギタ、ハイウスバノリ属：カギウスバノリ、ヤレウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、ウスバノリモドキ属：ウスバノリモドキ、アヤニシキ属：アヤニシキ、アヤギタ属：アヤギタ、ダダ属：エナシダ属、シマダダ属：イソハギ、シマダダ、ダジモドキ属：ダジモドキ、イトダ属：モロイトダ、フトイダ、マクリ属：マクリ、ヤナギノリ属：ハナヤナギ、ユナ、ヤナギノリ、モツレユナ、ベニヤナギコリ、モサヤナギ、ササバヤナギノリ、ソゾ属：クロソゾ、コブソゾ、ハネソゾ、ソゾノハナ、ハネダ属：ハネダ、ケハネダ、コザネモ属：コザネモ、イソムラサキ、ホソコザネ、ヒメゴケ属：ヒメゴケ、クロヒメゴケ、ヒオドシ属：キクヒオドシ、ヒオドシダ属：ウスバヒオドシ、アイソメダ属：アイソメダ、スジナダ属：スジナダ、イソバショウ属：イソバショウ、フジマツモ属：フジマツモ、ノコギリヒバ属：ハケサキノコギリヒバ、カワモズク属：カワモズク、アオカワモズク、ヒメカワモズク、イデユコゴメ属：イデユコゴメ、オキチモズク属：オキチモズク、イトダ属：チノリモ属：チノリモ、チスジノリ属：チスジノリなど。

【0051】車輪藻類（シヤクモ属、シラタマモ属、ホシツリモ属：ホシツリモ、リクノタムヌス属、フラスコ属：ヒメフラスコモ、チャボフラスコモ、トリペラ属など）、黄色藻類（ヒカリモ属：ヒカリモなど）など。

【0052】又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠抽出物、牛・人の胎盤抽出物、豚・牛の胃や十二指腸或いは腸の抽出物若しくはその分解物、豚・牛の脾臓の抽出物若しくはその分解物、豚・牛の脳組織の抽出物、水溶性コラーゲン、アシル化コラーゲン等のコラーゲン誘導体、コラーゲン加水分解物、エラスチン、エラスチン加水分解物、水溶性エラスチン誘導体、ケラチン及びその分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及びその分解物又はそれらの誘導体、豚・牛血球蛋白分解物（グロビンペプチド）、豚・牛ヘモグロビン分解物（ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等）、牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脂肪粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクチフェリン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物など。

【0053】(14)微生物培養代謝物
酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、米発酵エキス、米糠発酵エキス、ユーグレナ抽出物、生乳、脱脂粉乳の乳酸発酵物やトレハロース又はその誘導体など。

【0054】(15)α-ヒドロキシ酸
グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸など。

【0055】(16)無機顔料
無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、ベントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマ

ス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、ゲンジヨウ、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、カラミンなど。

【0056】(17)紫外線吸収/遮断剤

p-アミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファール誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ベンゾフェノン類、オキシベンゾリン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、ネオヘリオパン、ウロカニン酸誘導体、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリンなど。

【0057】(18)美白剤

p-アミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファール誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、オキシベンゾリン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリンなど。

【0058】(19)Tyrosinase活性阻害剤

アスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノン及びその配糖体、コウジ酸及びその誘導体、トコフェロール及びその誘導体、N-アセチルチロシン及びその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、ハイドロキノンモノベンジルエーテル、胎盤エキス、シルク抽出物、植物エキス(クワ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サンザシ、ユーカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、ケイヒ、マンゲイトシ、ハマメリス、ヤマガワ、延命草、桔梗、トシシ、統随子、射干、麻黄、センキュウ、ドクダシ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、シャクヤク、ゲンショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、緑茶、紅茶、阿仙葉など)。

【0059】(20)メラニン色素還元/分解

ハイドロキノンモノベンジルエーテル、フェニル水銀ヘキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛など。

【0060】(21)ターンオーバーの促進作用/細胞賦活
ハイドロキノン、乳酸菌エキス、胎盤エキス、霊芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、発酵乳エキス、植物エキ

シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センプリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オトギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、ローズマリー、バセリなど)。

【0061】(22)収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、p-フェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸(カテキン化合物を含む)など。

10 【0062】(23)活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼなど。

【0063】(24)抗酸化剤

アスコルビン酸及びその塩、ステアリン酸エステル、トコフェロール及びそのエステル誘導体、ノルジヒドログアセチレン酸、ブチルヒドロキシトルエン(BHT)、ブチルヒドロキシアニソール(BHA)、ヒドロキシチロソール、バラヒドロキシアニソール、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシボールなど。

20 【0064】(25)過酸化脂質生成抑制剤

β-カロテン、植物エキス(ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、セージ、ローズマリー、南天実、キナ、エイジツ、イチョウ、緑茶など)。

【0065】(26)抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェンヒドラミン、d又はd-1-カンフル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロルフェニラミン、グリチルリチン酸及びその塩、グリチルレチン酸及びその塩、甘草エキス成分、シコニンエキス、エイジツエキスなど。

30 【0066】(27)殺菌・消毒薬

アクリノール、イオウ、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニウム、クレゾール、グルコン酸カルシウム、グルコン酸ナトリウムヘキサジ、スルファミン、マーキエクロム、ラクタフェリン又はその加水分解物、塩化アルルギアミノエチルグリシン液、イソプロピルメチルフェノール、トリクロサン、クジンなど。

40 【0067】(28)保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヒアルロン酸及びその塩、ポリエチレングリコール、コンドロイチン硫酸及びその塩、水溶性キチンあるいはキトサン誘導体、ビロドンカルボン酸及びその塩、乳酸ナトリウム、ミニササニキエクスなど。

【0068】(29)エラストマーゼ活性阻害剤

フロロロニン酸ジイソプロピル、植物エキス(オウゴン、オトギリソウ、クララ、桑の葉、ケイヒ、ゲンシヨウコ、コンフリー、セージ、セイヨウニワトコ、ボダ

イジュ、ボタンビ)、海藻エキスなど。

【0069】(30)頭髪用剤

二硫化セレン、臭化アルキルイソキノリウム液、ジンクピリチオン、ビテナミン、チアントール、カスタリチンキ、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキ、塩酸キニーネ、強アンモニア水、臭素酸カリウム、臭素酸ナトリウム、チオグリコール酸など。

【0070】(31)抗アンドロゲン剤

卵巣ホルモン(エストロン、エストラジオール、エチニルエストラジオールなど)、イソフラボン、オキセンドロンなど。

【0071】(32)末梢血管血流促進剤

ビタミンE及びその誘導体、センプリエクス、ニンニクエキス、人參エキス、アロエエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジルなど。

【0072】(33)局所刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、1-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジルなど。

【0073】(34)代謝活性剤

感光素301号、ヒノキチオール、パントテン酸及びその誘導体、アラントイン、胎盤エキス、ビオチン、ベンタデカン酸グリセリドなど。

【0074】(35)抗脂漏剤

ビロキシン及びその誘導体、イオウ、ビタミンB6など。

【0075】(36)角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸など。

【0076】(37)酸化剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ピロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム塩化ナトリウム過酸化水素付加体、β-チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液など。

【0077】(38)除毛剤

硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウムなどの無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類(チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチウムなど)。

【0078】(39)毛髪影響剤

エタノールアミン、尿素、ゲアニジンなど。

【0079】(40)染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、1-

アミノ-4-メチルアミノアントラキノ、3, 3'-イミノジフェノール、塩酸2, 4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2, 4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2, 5-ジアミン、塩酸ニトロパラフェニレンジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、1, 4-ジアミノアントラキノ、2, 6-ジアミノピリジン、1, 5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2, 5-ジアミン、トルエン-3, 4-ジアミン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラアミノフェノール、パラニトロオルトフェニレンジアミン、パラフェニレンジアミン、パラメチルアミノフェノール、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、N, N'-N-ビス(4-アミノフェニル)-2, 5-ジアミノ-1, 4-キノンジイミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルパラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェニレンジアミン、硫酸4, 4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2, 4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2, 5-ジアミン、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラアミノフェノール、硫酸パラニトロオルトフェニレンジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カテコール、ジフェニルアミン、α-ナフトール、ヒドロキノ、ピロガロール、フロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2', 4'-ジアミノアゾベンゾリン-5'-スルホニル酸ナトリウム、ヘマテインなど。

【0080】(41)香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバーgrisなどの天然動物性香料、アニス精油、アングリカ精油、イランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレンジ精油、カナンガ精油、カラウエ精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、ゲラニウム精油、コパイバルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーグラス精油、杉精油、スベアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュペローズ精油、丁字精油、橙花精油、冬緑精油、トルーバルサム精油、パチュリー精油、バラ精油、パルマローザ精油、松精油、ヒバ精油、白樺精油、プチグレン精油、ペイ精油、ペチバ精油、ベルガモット精油、ペルーバルサム精油、ボアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム

精油、ラベンダー精油、リナロエ精油、レモングラス精油、レモン精油、ローズマリー精油、和種ハッカ精油などの植物性香料、その他合香料など。

【0081】(42)色素・着色剤

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナトー色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキアミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマシキ色素、タマリンド色素、スピリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫ヤマイモ色素、ラック色素、ルチンなど。

【0082】その他、保湿剤、ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイ剤、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血行促進剤、消炎剤・抗アレルギー剤、細胞賦活剤、角質溶解剤、創傷治療剤、増殖剤、増粘剤、口腔用剤、消臭・脱臭剤、苦味料、酵素などが上げられ、これらとの併用によって、相加的及び相乗的な各種の効果が期待できる。

【0083】又、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、化粧品組成物の剤型は任意であり、カプセル状、粉末状、顆粒状、固形状、液状、ゲル状、気泡状、乳液状、クリーム状、軟膏状、シート状などの医薬品類、医薬部外品類、皮膚・頭髪化粧化粧品類に配合して用いることができる。

【0084】具体的には、例えば、外用薬用製剤、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パックなどの基礎化粧品、洗顔料や皮膚洗浄料、マッサージ用剤、クレンジング用剤、アフターシェーブローション、プレシェーブローション、シェービングクリーム、シャンプー、リンス、ヘアトリートメント、整髪料、パーマ剤、ヘアートンナー、染毛料、育毛・養毛料などの頭皮・頭皮化粧料、ファンデーション、口紅、頬紅、アイシャドウ、アイライナー、マスカラなどのメークアップ化粧品、香水類、浴用剤、その他、歯磨き類、口中清涼剤・含嗽剤、消臭・防臭剤、衛生綿類、ウエットティッシュなど様々な製品に応用でき、又、一般的な飲食品類への使用も可能である。

【0085】尚、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、化粧品組成物への添加の方法については、予め加えておいても、製造途中に添加しても良く、作業性を考えて適宜選択すれば良い。

【0086】

【実施例】以下に、製造例、試験例、処方例を上げて説明するが、本発明がこれらに制約されるものではない。

【0087】(製造例1) ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの各植物をそれぞれ100gを精製水(約80℃)にて約5～6時間加温抽出し、濾過して 50

抽出液(乾燥固形分:約0.3～2.5重量%)を約1.0kg得る。

【0088】(製造例2) ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの各植物をそれぞれ100gを50%エタノール溶液に浸漬し、室温にて3～7昼夜抽出した後、濾過して抽出液(乾燥固形分:約0.3～2.5重量%)を約1.0kg得る。

【0089】(製造例3) ウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの各植物をそれぞれ100gを70%エタノール溶液又は30%1,3-ブチレングリコール溶液、又は60%プロピレングリコール溶液、又は精製水(約30℃)に浸漬し、室温にて3～7昼夜抽出した後、濾過して抽出液(乾燥固形分:約0.3～3.0重量%)を約1.0kg得る。

【0090】(試験1) ヒスタミン遊離抑制試験
即時型アレルギー反応では、第2段階において感作された肥満細胞あるいは好塩基球からヒスタミンなどの化学伝達物質が遊離する。従って、ヒスタミン遊離を抑制するような物質は抗アレルギー作用が期待できる。本試験ではラットの肥満細胞からヒスタミン遊離試薬であるcompound48/80でヒスタミンを遊離させる試験法(J.Soc.C osmet.Japan, Vol.25, No.4, P.246 (1992))を用い、製造例2で得られた抽出液について検討した。

【0091】(試験方法)

a. 試料

尚、ヒスタミン遊離抑制試験の試料は本発明の製造例2で得られた抽出液を以下に示す、固形分濃度に精製水にて調整し、試験に供した。「ウヤク、ケイケツウ、ゲンノショウコ、コウボク、サイシンについては、固形分濃度:1.0重量%(図1)、又、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイヒ、ゴシツについては、固形分濃度:5.0重量%(図2)に調整」。尚、陽性対照として同濃度のグリチルリチン酸ジカルシウム、クロロリンを用いた。

b. 遊離ヒスタミン量の測定

ラット(Slc:Wistar系雄性ラット、約4～9週齢)の腹腔内から採取した肥満細胞浮遊液1.2mLに、試料0.2mLとcompound48/80を最終濃度1 μ g/mLとなるように加え、37℃で15分間インキュベートした。氷冷して反応停止後、反応液を遠心分離し、上澄から遊離したヒスタミンを抽出、精製し、 α -フルタルジアルデヒドにて発色させ、励起波長360nm、蛍光波長450nmにおける蛍光吸光度を測定し、式(数1)によりヒスタミン遊離抑制率を算出した。

【0092】

【数1】ヒスタミン遊離抑制率(%) = $\{1 - (A - C) / (B - C)\} \times 100$

A: 肥満細胞に試料を共存させてヒスタミン遊離剤を加えたときに遊離したヒスタミンの蛍光強度

B：肥満細胞にヒスタミン遊離剤を加えたときに遊離したヒスタミンの蛍光強度

C：肥満細胞から自然に遊離されるヒスタミンの蛍光強度 (A, B, Cは測定値から盲検値を引いたものである。)

【0093】(試験結果)結果は表1~2の通り、本発明のウヤク、オウゴン、カカオ、ケイクトウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボクの各種植物抽出物は、高いヒスタミン遊離抑制作用を有することが確認された。又、本発明のキジツ、ゴシツ、サイシンについては、クロモリン又はグリチルリチン酸ジカルシウムとほぼ同等のヒスタミン遊離抑制作用を有することが確認され、抗アレルギー剤として使用できることが解った。

【0094】(試験2)安全性試験

(1)皮膚一次刺激性試験

製造例1~3で得られた各種植物抽出液を乾燥固形分濃度が約5.0重量%となるように精製水にて調製し、背部を剪毛した日本白色家兎(雌性、1群3匹、体重2.3kg前後)の皮膚に適用した。判定は、適用後24,48,72時間に一次刺激性の評点法にて紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果は、すべての動物において、何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0095】(試験3)安全性試験

(2)皮膚累積刺激性試験

同様に製造例1~3で得られた各種植物抽出液を乾燥固形分濃度が約5.0重量%となるように精製水にて調製

(処方例1) 乳液

	重量%
1.スクワラン	5.0
2.オリーブ油	5.0
3.ホホバ油	5.0
4.セチルアルコール	1.5
5.グリセリンモノステアレート	2.0
6.ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル	3.0
7.ポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノオレート	2.0
8.1,3-ブチレングリコール	1.0
9.グリセリン	2.0
10. A：ウヤク50%エタノール抽出液	
B：オウゴン50%エタノール抽出液	
C：カカオ50%エタノール抽出液	
D：キジツ50%エタノール抽出液	
E：ケイクトウ50%エタノール抽出液	
F：ケイヒ50%エタノール抽出液	
G：ゲンノショウコ50%エタノール抽出液	
H：コウボク50%エタノール抽出液	
I：ゴシツ50%エタノール抽出液	
J：サイシン50%エタノール抽出液	
※A~Jの何れか1種	7.0
11.香料・防腐剤	適量
12.精製水	100とする残余

*し、側腹部を剪毛したハートレー系モルモット(雌性、1群3匹、体重320g前後)の皮膚に1日1回、週5回、0.5ml/匹を塗布した。塗布は2週に渡って行い、剪毛は各週の最終塗布日に行った。判定は、各塗布日及び最終塗布日の翌日に一次刺激性の評点法にて紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果は、すべての動物において、2週間に渡って何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0096】(試験4)安全性試験

(3)急性毒性試験

同様に製造例1~3で得られた各種植物抽出液を減圧濃縮・乾燥して得られた粉末(乾燥固形分約1.0重量%)を試験前、4時間絶食させたddy系マウス(雄性及び雌性、1群5匹、5週齢)に2,000mg/kg量経口投与し、毒性症状の発現、程度などを経時的に観察した。その結果、すべてのマウスにおいて14日間何等異状を認めず、又、解剖の結果も異状がなかった。よって、LD50は、2,000mg/kg以上と判定された。

【0097】(処方例)抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、化粧料組成物の製造

上記の評価結果に従い、以下にその処方例を示すが、各処方例は各製品の製造における常法により製造したもので良く、配合量のみを示した。又、本発明はこれらに限定されるわけではない。

【0098】

【0099】

(処方例2) ビールオフバック

	重量%
1.グリセリン	5.0
2.プロピレングリコール	4.0
3.ポリビニルアルコール	15.0
4.エタノール	8.0
5.ポリオキシエチレングリコール	1.0
6.ウヤク50%エタノール抽出液	3.0
7.キジツ50%エタノール抽出液	1.0
8.香料, 防腐剤	適量
9.精製水	100とする残余

【0100】

(処方例3) コールドクリーム

	重量%
1.サラシミツロウ	11.0
2.流動パラフィン	22.0
3.ラノリン	10.0
4.アーモンド油	15.0
5.ホウ砂	0.5
6.カカオ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
7.ケイキツ50%エタノール抽出液	2.0
8.ゲンノショウコ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
9.香料, 防腐剤	適量
10.精製水	100とする残余

【0101】

(処方例4) ボディーソープ

	重量%
1.ラウリン酸カリウム	15.0
2.ミリスチン酸カリウム	5.0
3.プロピレングリコール	5.0
4.オウゴン30%エタノール抽出液	0.5
5.コウボク1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
6.ゴシツ抽出液	1.5
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=2:1±5)	
7. pH調整剤	適量
8.防腐剤	適量
9.精製水	100とする残余

【0102】

(処方例5) シャンプー

	重量%
1.ラウリン硫酸トリエタノールアミン	5.0
2.ポリオキシエチレンラウリンエーテル硫酸ナトリウム	12.0
3.1,3-ブチレングリコール	4.0
4.ラウリン酸ジエタノールアミド	2.0
5.エド酸二ナトリウム	0.1
6.ウヤク30%プロピレングリコール抽出液	3.0
7.サイシン50%エタノール抽出液	3.0
8.キジツ50%エタノール抽出液	3.0
9.香料, 防腐剤	適量

10.精製水

100とする残余

【0103】

(処方例6) リンス

	重量%
1.塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2.セトステアリルアルコール	2.0
3.ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4.プロピレングリコール	5.0
5.カカオ50%エタノール抽出液	3.0
6.ゲンノショウコ50%酢酸エチル抽出液	3.0
7. pH調整剤	適量
8.防腐剤	適量
9.精製水	100とする残余

【0104】

(処方例7) ヘアーキッド

	重量%
1.エタノール	29.0
2.ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3.ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4.トリエタノールアミン	1.0
5.コウボク熱水抽出液	5.0
6.ゴシツ50%エタノール抽出液	5.0
7.防腐剤	適量
8.精製水	100とする残余

【0105】

(処方例8) ヘアートニック

	重量%
1.エタノール	40.0
2.オレイン酸エチル	1.0
3.ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0
4. A : ウヤク50%エタノール抽出液	
B : オウゴン50%エタノール抽出液	
C : カカオ50%エタノール抽出液	
D : キジツ50%エタノール抽出液	
E : ケイケットウ50%エタノール抽出液	
F : ケイヒ50%エタノール抽出液	
G : ゲンノショウコ50%エタノール抽出液	
H : コウボク50%エタノール抽出液	
I : ゴシツ50%エタノール抽出液	
J : サイシン50%エタノール抽出液	
※A~Jの何れか1種	10.0
5.香料・防腐剤	適量
6.精製水	100とする残余

【0106】

(処方例9) 顆粒浴用剤

	重量%
1.炭酸水素ナトリウム	63.0
2.無水硫酸ナトリウム	20.0
3.ホウ砂	2.0
4. A : ウヤク50%エタノール抽出液の乾燥粉末	

- B: オウゴン50%エタノール抽出液の乾燥粉末
 C: カカオ50%エタノール抽出液の乾燥粉末
 D: キジツ50%エタノール抽出液の乾燥粉末
 E: ケイゲツウ50%エタノール抽出液の乾燥粉末
 F: ケイヒ50%エタノール抽出液の乾燥粉末
 G: ゲンノショウコ50%エタノール抽出液の乾燥粉末
 H: コウボク50%エタノール抽出液の乾燥粉末
 I: ゴシツ50%エタノール抽出液の乾燥粉末
 J: サイシン50%エタノール抽出液の乾燥粉末

※ A～Cの何れか1種

15.0

【0107】(処方例10) 被覆保護剤

ガーゼ又はリニメント布にウヤク50%エタノール抽出液・コウボク30%エタノール抽出液、抗生物質・抗炎症など適量を混合した処方液を含浸させ、外傷部に添付する。又、ウヤク50%エタノール抽出液及びコウボク30%エタノール抽出液を直接、局所に散布し、ガーゼなどで被覆しても良い。

【0108】(試験5) 使用効果試験

本発明の化粧料組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストは肌荒れ、湿疹、アレルギー性・アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患で悩む5～50歳の20名をパネラーとし、毎日、朝と夜の2回、洗顔後に処方例1の乳液の適量を顔面に4ヶ月に渡って塗布することにより行った。又、頭皮や髪の生え際に同様の皮膚疾患が見られる20名(5～50歳)についても、毎日の洗髪後、処方例8のヘアートニックの適量を頭皮に4ヶ月に渡って塗布することにより使用テストを実施した。

【0109】更に、処方例9の溶剤剤についても、肌荒

れ、湿疹、アレルギー性・アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患で悩む、3～65歳の20名を対象に、4ヶ月間、必ず1日1回適量の溶剤剤を溶解させた浴湯に入浴してもらい、使用テストを実施した。対照には、乳液、ヘアートニックから本発明の各種植物抽出物を除いたものを同様な方法にて処方したものを用いた。溶剤剤は本発明の各種植物抽出液の乾燥粉末の代わりに無水硫酸ナトリウムに変えて、同様の方法にて処方したものを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表1～3の通りで表中の数値は人数を表す

【0110】「皮膚(頭皮)疾患改善効果」

有 効: 湿疹による赤みやカユミ、肌荒れ、アレルギー性・アトピー性皮膚炎が改善された。

やや有効: 湿疹による赤みやカユミ、肌荒れ、アレルギー性・アトピー性皮膚炎がやや改善された。

無 効: 使用前と変化なし。

【0111】

【表1】

		有 効	やや有効	無 効
乳 液	ウヤク抽出物	6	1 2	2
	オウゴン抽出物	5	1 2	3
	カカオ抽出物	0	1 4	6
	キジツ抽出物	3	1 2	5
	ケイケットウ抽出物	3	1 1	6
	ケイヒ抽出物	3	1 4	3
	ゲンノショウコ抽出物	4	1 4	2
	コウボク抽出物	6	1 2	2
	ゴシツ抽出物	1	1 2	7
	サイシン抽出物	3	1 3	4
	対照品	0	5	1 5

【0112】

【表2】

		有 効	やや有効	無 効
ベートニツ	ウヤク抽出物	3	13	4
	オウゴン抽出物	7	11	1
	カカオ抽出物	1	15	4
	キシツ抽出物	2	14	4
	ケイケットウ抽出物	1	14	5
	ケイヒ抽出物	1	12	7
	ゲンノショウコ抽出物	4	15	1
	コウボク抽出物	6	11	3
	ゴシツ抽出物	1	15	4
	サイシン抽出物	2	18	0
	対照品	0	3	17

【0113】

【表3】

		有 効	やや有効	無 効
浴用剤	ウヤク抽出物	3	12	5
	オウゴン抽出物	3	11	6
	カカオ抽出物	0	13	7
	キジツ抽出物	1	13	6
	ケイケツトウ抽出物	0	12	8
	ケイヒ抽出物	1	13	6
	ゲンノショウコ抽出物	2	12	6
	コウボク抽出物	2	12	6
	ゴシツ抽出物	1	10	9
	サイシン抽出物	2	10	8
	対照品	0	3	17

【0114】(試験結果)表1～3の通り、本発明のウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツトウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの各植物抽出物を配合する化粧料組成物(乳液、ヘアートニック、浴用剤)の使用により、湿疹による赤みやかゆみ、肌荒れ、アレルギー・アトピー性などの皮膚・頭皮の炎症などの改善に対して、良好な効果が確認された。

【0115】

【発明の効果】本発明のウヤク、オウゴン、カカオ、キジツ、ケイケツトウ、ケイヒ、ゲンノショウコ、コウボク、ゴシツ、サイシンの各植物抽出物は、優れたヒスタミン遊離抑制作用を有し、又、安全性も高く、従って、抗アレルギー剤、具体的には、ヒスタミン遊離抑制剤として使用でき、湿疹、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症などの各種アレルギー性疾患の予

防、治療に有効である。又、あらゆる形態の製剤(医薬品類、医薬部外品類、化粧品類)への応用も可能である。特に本発明の化粧料組成物(乳液、ヘアートニック、浴用剤)は、アレルギー・アトピー性の皮膚炎症疾患(例えば、発赤、湿疹、浮腫、腫脹など)や肌荒れといったトラブルを有する皮膚・頭皮に対して、その予防及び改善を目的として使用することができる。その他、口腔用組成物や食品への利用展開も可能である。

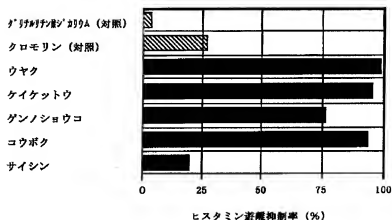
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のウヤク、ケイケツトウ、ゲンノショウコ、コウボク、サイシンの各植物抽出物のヒスタミン遊離抑制率を示す図である。

【図2】本発明のオウゴン、カカオ、キジツ、ケイヒ、ゴシツの各植物抽出物のヒスタミン遊離抑制率を示す図である。

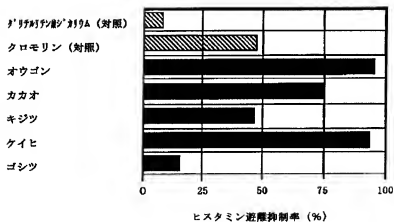
【図1】

各植物抽出液のヒスタミン遊離抑制作用



【図2】

各植物抽出液のヒスタミン遊離抑制作用



フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA082 AA111 AA112 AA122
AB272 AB312 AB352 AC022
AC072 AC102 AC122 AC182
AC242 AC352 AC402 AC422
AC432 AC532 AC542 AC692
AC782 AC902 AD112 AD512
CC05 CC07 CC23 CC25 CC32
CC37 CC38 CC39 DD16 DD23
DD27 DD31 EE13 EE21 EE22
4C088 AB12 AB33 AB38 AB55 AB59
AB62 AB65 AC01 AC04 AC05
AC06 AC11 AC13 BA08 BA09
BA10 MA07 MA63 ZA89 ZB13
ZC13